

脚光を浴びない女

プレオム劇

言わせて! 今日の芝居

五十字劇評 No.49

【六〇代】

▼洗練されぬ歌詞。光ささない主婦達。喜怒哀楽の「怒哀」の多い、ささやかだが、かけがえのない人生ステージ。

(女性)

▼幸か不幸か、ほとんどの人間は『脚光を浴びない』のだ。老化現象、老老介護、

住宅問題、子供の教育。はた(客席)から見ると滑稽だが、当人(舞台)にとつては重大事ということはある。臭いドブ川、甘酸っぱいロマンス、赤面ものの宴会芸。われわれの世代にとつては身に覚えのあることばかり。「そうそう、あるある」と思っていたら、客席のあちこちからも笑い声が。秀子の母、てるの「抱きしめて抱きしめて育ててきたとやから」の言葉に優しくなれた気がした。(男性)

各自が大きな破綻もなく演技していた点は、良かったかもしれない。印象に残ったのは、交通刑務所から帰って来た女性の歓迎会のシーンで、大きな声で笑っていた観客がいて、人によって笑いのツボは随分違うのだなど、妙なところで感心してしまった。(男性)

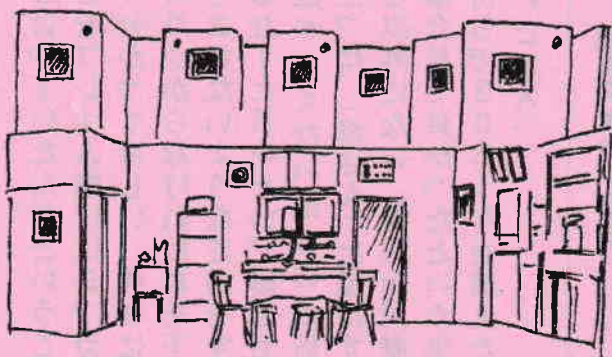
(男性)

▼観て感動した作品は、自然とたくさん言葉が出てくるものだが、残念ながら今回はそれがなかった。ドタバタ劇の中で多少は笑つたものの、後に残るものになかった。あまり期待しないで観た作品なので、そこは思っていた以上に面白かったとも言える。出演者

(女性)

▼団地のドタバタ劇。一つ一つの所作はコント風で面白いのだが、全体をみると何を言いたいのか分からない話だった。(男性)

(男性)



【七〇代】

▼まず脚本を書いた中島淳彦を賞賛したい。とにかく面白かった！こんなに笑ったのは久々です。女優陣皆それぞれ持ち味を出しており、特に（体力的にも）活躍する小林美江にはご苦労さんと言いたい。是非、多くの人に見てほしい。（男性）



（女性）

▼どこにでもある話。少なくなつたのは隣り近所付合。軽妙なタツチで描かれたテーマは私たちに向けられた現実問題。（男性）

▼どの場面をくり抜いても一つの舞台ができるのではないかと、又速いテンポの中の台詞の間合いが楽しかったです。

▼今年のお芝居は気が重くなる内容が多かつたなか、今回のお芝居は、コロナを飛ばすかのような笑いが公会堂に響いていました。私も今年観た中では確かに面白いと思つたが、あれほどの笑いが巻き上がるとは、ビックリでした。セリフも良く聞こえ舞台も音楽も良かったと思います。久々に大笑いではないが、笑つたり少し理不尽ではと思ひながら観ていました。（女性）

▼あきさせずに見せてもらいました。終わってみたら、なかがみがない。団地の立ち退き問題はどうなったのかな。（女性）

▼配役に個性があり、分かりやすかつた。古い団地だから、隣人とコミュニケーションがとれるのかな。ミステリアスなことあつて、ドキドキ。（女性）

【年代・性別不明】

▼何これ？自己満足の舞台をみせているだけじゃないか！しかも、下手くそだし……。こんな芝居を観るために会費を払っているわけじゃないぞ。……と、途中で席を立ちたかつたんだけど、同情心から最後まで付き合つたワケで……旭川の会員は心が温かいから……と言うか、寛大だから、手拍子を打つたりして舞台に付

き合つていたんだということ。プレオム劇にはシツカリ分かつてほしい。観客に寄りかからなければ幕を下ろされないような芝居をするな！と言いたい。感想も述べたくないほどの芝居だつた。「母さん」に期待する以外にない。旭川市民劇場会員で良かつたという気持ちで2021年を終えたいと思う。

編集スタッフから

私と市民劇場の関わりは、観続けるといふこと、「微力」ですが多くの「微力」が集まると力になります。旭川市民劇場が安心して観られますように、力を合わせましょう。会員の皆さん一年お疲れ様でした。来年が良い年でありますように、会場であいしましょう。